京都大学における次世代研究者支援のこれまでと今後

P035

鮎川 慧｜伊藤 健雄｜豊田 裕美｜佐々木 結｜齊木 あや｜園部太郎｜山﨑 有香（京都大学 学術研究展開センター）

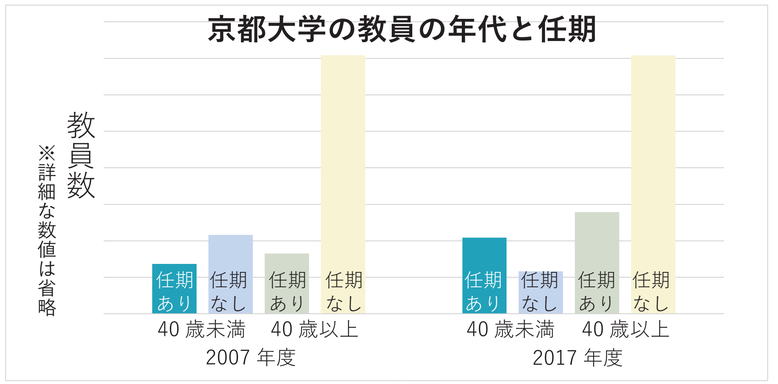
国立大学の独法化から 20 年が経ち、若手 - 中堅研究者の多くが独法化後に研究者として歩み始めた者たちとなった現在、彼らが抱える様々な問題―長期的な研究への取り組みづらさ、研究時間の不足、度重なる評価への疲弊、若者の内向き思考などーが浮き彫りになっている。京都大学学術研究展開センター（KURA）ではこれまで、下記のような問題意識を持ちながら、それらの課題への対処施策を様々な角度から実施してきた。

若手の早期 PI 化や流動化が進むいま、伝統的に研究室で継承されていた、アカデミアとして生き抜くための「知恵」は補えているだろうか？

変革の進む大学は、次世代研究者という「財産」を最大限に活かせているだろうか？

エビデンスに基づき、かつ書誌情報に偏らない研究支援の在り方はないだろうか？

世界が複雑に絡み合いながら衝突し、既存のパラダイムが崩れつつある現代社会の中で、次世代研究者がモチベーションを保ちながら研究を展開させていくための支援には、どのような形があり得るのだろうか？



この 10 年間で
任期のない若手は半減
任期付きは若手も中堅以上も 1.5~2 倍弱に増加

まずは現状を網羅的に把握

新任研究者訪問（2016 年 5 月～2017 年 8 月）

目的：研究環境の把握、研究支援の周知
対象：着任後 1 ヶ月～10 ヶ月の新任研究者
人数：対象者のうちコンタクトの取れた 106 名（半数以上が助教、80% 以上が任期付き）
質問：主に研究環境について

教育研究以外の用務が多くて、自分の研究に手が回らない
研究推進上の問題を相談できる相手が身近にいない
留学したら戻ってくるポストがないような気がして、留学できない
博士課程の学生が少なく、学部生や新たらしく入った修士学生の指導に追われている

浮き彫りになった現状

- 任期付き / プロジェクト雇用で厳しい条件下で試行錯誤する若手
- シニアと若手が見ている風景の差
- 置き去りにされる層の存在

これは一次的な状態で、一部の偏った意見ではないの？

・・・などなど

少し深堀

新任期から数年後の状態は？

2 回目のヒアリング調査（2019 年 8 月～2019 年 9 月）

目的：研究の促進 / 阻害要因とそのメカニズムを明らかにする、定点調査設計の土台とする
対象：初回のヒアリング協力者の中から、研究分野、雇用状況、出身大学等の属性に偏りがないように選定
人数：20 名
質問：「変化」に着目し、研究環境と研究アウトプットのメカニズムを探る質問

明らかになったこと

- 海外での研究を経験することにより「現状を打開」したり「更なる発展」を目指すことができている
- 「雑用が多い」など研究時間が取れない状況でも、研究成果を出している研究者は多い
- 研究室内での関係や運営が良好で PI 等とコミュニケーションが円滑である場合、また学内事情等の周辺情報に不足がない場合、研究活動が順調に進む傾向にある
- ナリッジシェアがない環境は研究の行き詰まりに繋がると感じている若手研究者が多い
- 研究者として中長期的にどのように行動すべきかを考え、周りの状況を俯瞰して将来展望を持つこと（そしてそれを周囲に意思表示すること）が研究力向上に直結している可能性がある

・・・などなど

若手が直面している課題群を分類し、学内の研究支援情報のまとめサイトを作成

量的把握の必要性？

学内の研究環境を定点観測する仕組み

網羅的アンケート調査 or 更なる深堀？

- 研究支援各要因の影響や相互作用の量的分析を可能にする、書誌情報に偏らないデータを得る必要があるのではないか？
- 少なくとも、支援策を状況の変化に的確に順応させていくため、数年に一度の定点観測が必要ではないか？

研究の多様性を損なわない研究評価の検討？

- 研究者の研究環境とキャリア形成は、研究評価と密接にリンクしている
- 研究者が適性に評価されていると感じられ、評価疲れせず、なおかつ多様な知的営みを支える持続可能な環境を構築するための”責任ある研究評価”とは？

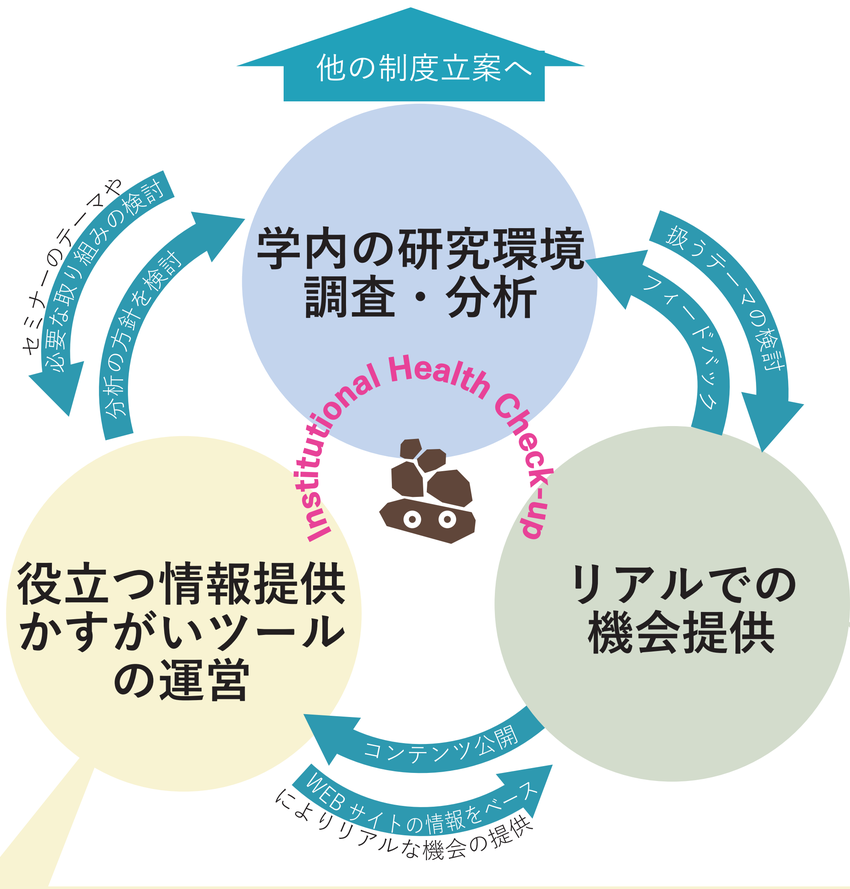
環境改善に自ら取り組む意識の涵養

研究費獲得のための制度
・科研費、学振、育志賞、創発等の申請書ブラッシュアップ・ヒアリング審査支援
・科研費でのステップアップを支援する学内ファンド**いしずえ**

国際的ネットワーク形成のための制度
・海外でのネットワークを形成するための学内ファンド **AI DA**

世界トップ研究者を育成するための制度
・若手研究者戦略的育成プログラム **L-Insight**

長期的ビジョンを描くための制度
・志の高い次世代研究者が腰を据えて学問に取り組むための**くすのき・125**



数多の情報の中から必要なものを自ら選び取り、その選択の積み重ねを自ら肯定していくことをお手伝いしたい

研究者の歩きかたサイト開設（2019 年 3 月）

- 研究者としてずっと活動していきたい / もっと活動の幅を広げたい次世代研究者向けの学内の支援情報ポータルサイト
- 学内 23 他部署と連携
- ヒアリングをもとに 4 つのテーマを設定
- テーマごとに学内の支援制度紹介、専門家による解説つき

https://ecr.research.kyoto-u.ac.jp/

メーリングリストによる毎月の情報提供を開始

336 人の学内院生・若手研究者が登録（2024 年 9 月末時点）

若手研究者向け FD も検討中

伝統的に研究室で継承されていた研究者として生き抜くための「知恵」を伝授

レクチャーシリーズ“歩き方セミナー”実施

研究室内で得ることができなくなった知識・情報を支援者や専門家が提供

次世代研究者会議（案）の検討？

- 有志研究者（海外出身研究者を含む）が年に 1､2 回の「当事者」としてディスカッション
- 中長期的展望を描くための判断材料、議論の環境を研究者が自ら得られるようなサポートとして企画
- 若手研究者にとって有益な学術動向を共有したり、個々が必要とする学術情報を交換できる場
- ゆくゆくは様々なステークホルダーで大学運営や研究活動基盤そのものを検討していく場に育成

京都大学 KYOTO UNIVERSITY
KURA 京都大学 学術研究展開センター Kyoto University Research Administration Center